

市民の声を聞き 暮らしを守る市政を

6月議会 代表質問
岡田ゆき子議員

6月議会の代表質問で岡田ゆき子議員は、4月の市長選で再選した河村たかし市長に、市民の声をよく聞き、市民の暮らしを守る立場に立つ市政運営を求めました。



コロナ感染防止に効果的なPCR等検査

高齢者通所等施設へのPCR検査拡充へ

無症状者を含めた感染者の把握と保護が、感染の連鎖を断ち、新規感染者を減らすことになります。党市議団はこれまで、徹底した大規模検査を求めてきました。

岡田議員は、独自で行った施設へのアンケート調査の結果を示しながら、高齢者入所施設等の従業員への集中的検査を6月で終わらせず延長すること、さらに通所サービス施設への検査も行うよう求めました。健康福祉局長は「国の事務連絡に従い、感染状況に応じて入所施設の従事者への検査の継続や、通所施設への拡大を検討する」と答えました。

保育所等でもワクチン接種とともに定期検査を

さらに岡田議員は、若い世代に感染者が多い

実態を示し、家庭から保育所への広がりやで休園する保育園が増え、働く人への影響がでていることを指摘し、ワクチン接種の効果が出るまでに時間がかかること踏まえ、保育所従事者へのPCR検査を行うことを求めました。健康福祉局長は「クラスター対策上必要なら検査を拡大している」と答えました。

障害者等が利用する地域活動支援事業への補助を

市内約70か所の地域活動支援センターは国の「サービス継続支援事業補助金」が交付されません。岡田議員は「市独自で補助する仕組み」を求めました。局長は「市独自でマスクなど配布や任意の検査補助をしている。引き続き支援し、実態などの把握に努めていく」と答えました。

コロナ過で苦しむ学生に支援を

多くの学生が生活費の糧としているアルバイトがコロナ禍のもとで大幅に減り、保護者も収入減少で仕送りもままなりません。

岡田議員が市長に、学生などの声を聴くよう求めると「若い人を応援するのが僕らの仕事。行きます」と答えました。

敬老パス利用制限の実施は延期を

コロナ禍で、敬老パスの昨年の乗車率は例年の69%。利用回数制限はさらに高齢者の社会参加意欲を低下させる。撤回すべき」と求めました。市長は、「来年2月からは予定通り730回の制限はする」と答えるだけでした。

給食費の無償化を

岡田議員は「憲法26条2項の『義務教育は無償とする』という原則にそって学校給食の無料化に踏み出すべき」と求めました。

知事リコール署名偽造事件…市長関与の疑惑深まる 政治的道義的責任認め、市民に謝罪すべき

個人質問
江上博之議員



本会議個人質問で江上博之議員が、知事リコール不正署名問題で市長の責任を厳しく追及しました。

マスコミもこぞって市長の責任を指摘

江上議員は「運動の中心的な役割を果たし、最終的に逮捕者まで出した責任は重い」(5月21日付「読売」)などのマスコミ各社の主張を紹介し、「市長には事件への政治的道義的責任がある。市民に謝罪すべきだ」と迫りました。

しかし河村市長は「独自調査で徹底的に事実を究明することで自らの責任を果たす」と述べるだけ。江上議員は「組織の長として失格ではないか」と市長の姿勢を批判しました。

署名偽造のただ中「容疑者と3、4回会食」

署名の偽造が行なわれた昨年10月下旬、河村市長と田中容疑者が会食していたことが、2月議会で明らかになっています。

江上議員は「市長は田中容疑者と親密な関係が続けていたのではないかと追及。

河村市長は「10月に3、4回(容疑者と)メン

を食った。25、26日は領収書がある」と認め、偽造署名作成の時期に容疑者と親密な関係が続けていたことがわかりました。また、会食時の会話内容について問われると「偽造という話は全くなかった。(同容疑者から)名簿がなかなか集まらん、という話はあった」と答えました。

江上議員は「(市長の事件関与について)ますます疑惑が深まった。名古屋の民主主義を取り戻すため、引き続き河村市長の責任を追及する」と述べました。

議員報酬800万円特例条例が否決 日本共産党が賛成 自民・民主・公明は反対

6月議会では、市長提案の議員報酬を800万円にする特例条例案に、共産・減税・無会が賛成、自民・民主・公明・未来が反対し、否決されました。

議員報酬は市民参加の第三者機関で議論を

議員報酬は特例的に800万円に戻し、新たな報酬額(制度値)は市民参加の第三者機関で議論して決めるというのが日本共産党市議団の立場です。800万円から1450万円に引き上げられて以降、増額された手取り分は使わずに寄付する態度で臨んでいます。

市民に開かれた名古屋市議会をつくるための申し入れ

政務活動費のインターネット公開を

政務活動費の収支報告書と領収書のインターネット公開については、2年前の議会運営委員会において「可及的速やかに行うこと」で「理事会において意見の一致を見」ていますが、いまだに公開されていません。市議団は「他の政令市でも行っており、名古屋市でも可及的速やかに行うよう」求めました。

議会報告会の開催の努力を

市議会基本条例にもとづく議会報告会が、しばらく開催されていません。市議団は、議長に対し、コロナ禍ではあるが、オンラインも活用しながら、議会ごとに議会報告会を開催することを提案しました。



6月4日 議長に申し入れる市議団

日本共産党 ニュース
名古屋市議団
273号
2021. 8

〒460-8508
名古屋市中区三の丸 3-1-1
名古屋役所内
TEL: 052-972-2071
FAX: 052-972-4190

保護者・住民の理解を得ないで決めるな！

天白区
高坂小の統廃合

教育長「理解を得て進める」

個人質問 田口一登議員



6月議会本会議で、田口一登議員が、高坂小学校の統廃合計画について質問しました。

「保護者や住民の理解を得なくても統合を決めるのか」との質問に、鈴木教育長は「丁寧に協議を重ね、関係する皆様の理解を得て取り組みが進められるよう努める」と答弁しました。

統合場所の液状化と鉄塔

名古屋市教委の学校統廃合計画＝「子どもいきいき学校づくり計画」では、教育委員会が対象校ごとに作成した個別プラン（統廃合計画案）を有識者でつくる「子どもいきいき学校づくり推進審議会」へ諮問し、答申を受けて進めるとされています。高坂小学校をしまだ小学校に統合する個別プランは、昨年12月以降、5回にわたって審議されましたが、いまだに答申が出されていません。

審議会で大議論になっているのは、統合予定場所であるしまだ小学校の立地の安全性です。しまだ小は、敷地の一部が「液状化発生の可能性が高い」エリアです。南西角は土砂災害警戒区域にかかっており、その崖の上に送電線の鉄塔が立っています（左図参照）。田口議員は、「液状化対策や鉄塔の安全性という『子どもいきいき学校づくり』とかけ離れた議論を審議会ですなけれ

ばならないような統廃合計画案は、白紙に戻すべきではないか」と質問。教育長は「学校統合を契機に安心・安全・快適な施設環境をめざしている」と答弁しました。田口議員は、統合如何にかかわらず、いま通っている児童などの安全のため、速やかに液状化の地盤調査を行い、巨大地震に備えた対応の検討を求めました。

保護者アンケートで反対63%

「高坂小学校を存続させる会」が河村市長に直接提出した存続要望署名は4,500筆を超え、高坂小のPTA役員が昨年7月、保護者を対象に行ったアンケートでも、統合に反対が63%にのぼり、賛成は12%しかありませんでした。田口議員は、「高坂小の統廃合計画案について、保護者や地域住民の理解が得られているのか」と質問。教育長の答弁は「様々なご意見をいただいている」というもので、理解が得られているとは言えませんでした。

都市高速の理念に反する 計画変更にも反対

今回の計画は、都市高速道路が交差する中区の丸田町ジャンクションで、北方面から西方面へ向かう西渡り線、西方面から南方面へ向かう南渡り線を建設し、栄との連絡のための出入り口を建設するものです。そのために、平面道路の空港線と若宮大通の歩道に橋脚を建設するものです。

都市高速道路整備計画変更（案）に対し、さはしあこ議員が都市消防委員会で、江上博之議員が本会議最終日に、討論を行いました。

江上議員は、今回の計画について「通過交通を都心から排除するという市高速の理念に反する」「歩道に橋脚が林立、騒音や大気汚染など住民に犠牲を強いることになる」「住民犠牲を押し付けて1200億円もの巨額の投資でよいのか」の3点を指摘し反対しました。

「校則アンケート」中間報告

校則によって子どもたちが傷ついている

日本共産党名古屋市議団は5月末から、「校則アンケート」を実施しました。

市議団HPアンケート回答コーナーのQRコードを掲載したA6版チラシ（下の二種類）8,200枚を市内の学校最寄り駅や学校前などで配布。これまでに133通（6月末現在）の回答が寄せられました。

ご協力ありがとうございました。

お寄せいただいたご意見を参考に多くの人達と議論を深め、力を合わせて、「校則見直し」の扉を開けていきたいと思っています。

校則等の影響について尋ねたところ、1位が「監視されているようで窮屈」、2位が「とても疲れる」。校則によって子どもたちが「人間として傷ついている」ことが浮き彫りになりました。



自由記述欄にも、「高校は割と校則が緩く楽しめているが、中学時代はたくさんの校則に窮屈さを感じた」「本当に自由がなく自分自身の個性も出せずに学校生活を送っているのつまらない」などの声が寄せられ、楽しく安心して過ごせるはずの学校生活に校則がネガティブな影響を及ぼしていることがわかります。

多くは納得していない校則

子どもたちが、校則について学校からどのように説明されているのか聞きました。

なぜ校則を守らなければならないか、説明を受けたのは44%。半数以上の子どもたちが、そもそも説明を受けていませんでした。また、学校から説明を受けても納得しているのは2割足らずで、大半の子どもは校則に納得していないことがわかりました。

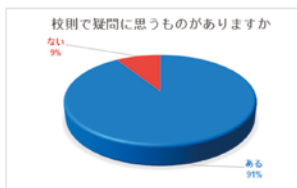
自由記述欄には「学校で決まっているから」「そういう決まりなんですよという押し付け」など説明の様子が語られています。また、「ツーブロックは不良などにかまれるといわれた」「髪の毛の長さやツーブロックの禁止をすることで実際に問題や事件などが減ったのか、データを掲示したうえでしっかりと納得できるような説明が欲しい」など、説明についての疑問や要望が寄せられました。

校則を変えられたらいい 94%

アンケートで、「校則をかえられたらいいと思う」と答えた子どもは全体の94%でした。校則に納得できない、疑問がある子どもたちは、校則を変えたいと思っています。校則のどんなところを変えたいかという問いに、「それ（校則のこと）をきめて何になるのか明確にしている校則を変えたい」「生徒が校則を作れるようにする」「正当な理由がない校則は変えたい」「もっと自由が欲しい」「生徒が自由に過ごせるようにしたい」と校則を変えたい思いを語っています。



「校則に疑問がある」 91%



日本共産党
名古屋市議団